

整備内容シート（猪名川関連部分）に関する意見（作業部会案）

シート名	事業名	猪名川部会とりまとめ案	備考
環境-14	横断方向の河川形状の修復の検討（下河原地区）	検討・試行で可；地域住民参画のワークショップには，流域全体の環境を視野に入れた河川レンジャーとの連携をはかり，河川環境再生の目標像を設定する．この目標像に即したモニタリング項目を設定し，モニタリング結果をもとに順応的に目標像そのものまたそれへの実現に向けた施策の見直しを行う．横断方向の河川形状の再生が最終目標ではなく，再生された河川環境を活用した，環境教育・自然体験のプログラムも同時に，地域住民の参画と協働のもとで推進し，地域住民にとってより意義の深いものにする必要がある．	
		下河原、下賀茂地区以外に貴重な既存のワンドを有する神田（こうだ）地区の整備も加えるべきである。	5章に対するコメント
環境-15	横断方向の河川形状の修復の検討（下加茂）	検討・試行で可；環境-14と共通。水制による河川整備は，多自然型工法の反省を踏まえ「川が川を作る」という提言の趣旨に沿っており賛成である。ただし下加茂を選定した理由を，流域全体の環境再生の視野にたって，位置付けていただきたい。目標の設定またその利用については環境-14におなじ。	5章コメント(ほかにも適地あるのではないか?)
環境-23	縦断方向の河川形状の修復の検討（魚類の遡上・降下）	不可；平成25年度まで検討・委員会開催とのスケジュールでは，今後20～30年後の整備計画原案をもとにした整備計画としては，何もしないと宣言するに等しい。農業用水取水要量の実体調査を早急を実施すること。水生生物の移動にとっては堰などの河川横断構築物がない方が望ましいのであって，堰の撤去も考慮した検討を行って欲しい。検討の結果，堰が必要とされる場合においては，縦断、横断方向の連続性にも配慮し，水生生物の移動が保証される，落差が小さく深みのある構造を工夫されたい。移動障害の急所と予想される堰においては，全面魚道もその選択肢に入れていただきたい。堰の統廃合がなくなったのは評価する。また魚道が機能的に効果を発揮するための維持管理も重要である。この維持管理には関係漁協また地域住民の参画と協働が必要である。また，魚道が本来の機能を破棄できる水量確保策（農水利水等との調整）について検討すべき。	他の魚道遡上効果施策に共通。
環境-25	縦断方向の河川形状の修復の検討（魚類の遡上・降下）	不可；上に同じ。平成25年度まで検討・委員会開催とのスケジュールでは，今後20～30年後の整備計画原案をもとにした整備計画としては，何もしないと宣言するに等しい。	

シート名	事業名	猪名川部会とりまとめ案	備考
環境-26	魚類等の遡上・降下が可能なる方策を検討	検討で可；ダムが魚類を始めとした水生動物の生活史の何を何処で分断しているのかを精査し、魚道の必要性を検討する必要がある。このことを見極めたうえで、魚道の必要性を検討する必要がある。流域全体を視野に入れる必要があり、ダムの位置によっては魚道設置の意味がそれほどない場合もありえる。この場合は費用対効果を勘案し、魚道設置を断念することも視野に入れるべきである。モノレール式魚道は、流域全体のダムの位置、遡上対象とする魚類を精査し、慎重に行う必要がある。まず既設の青野ダム魚道が賢明な策だったのかとんでもない愚行であったのかを十分に精査・検討し、次の魚道設置ダムを検討すべきである。	
環境-33	確保可能な水量を把握するために必要な諸調査を実施	可；基本的に賛成である。モニタリング等に関して、住民参加にも配慮されたい。水量は、水生生物の生息空間を一義的に規定する最重要要因との認識をもって望んでいただきたい。	水質に関しては別途(ここは流量)
環境-40	選択取水設備の継続活用及び各種の検討	検討・実施可；選択取水された放流水については水温以外の水質にも考慮し(例D0等)下流生態系へ配慮すべきである。また、人の利用のみを考慮した水質管理・運用だけでなく、鮎等に対する冷水病対策に配慮した温度管理を検討していただきたい。また、流入河川の富栄養化防止など根本的な対策も必要である。	
環境-41	曝気設備の継続活用及び各種の検討	検討・実施可；赤潮の発生メカニズムを検討したうえで、ばっきの効果を十分検討すべきである。また、流入河川の富栄養化防止など根本的な対策も必要である。	
環境-42	底質調査の継続実施と改善対策等の検討	検討・実施で可；もともと流水であった河川水を滞留させることによって生じる水質の悪化また、落葉・落枝などの有機物の堆積による底泥・底質の悪化は、大規模なダムのみならず、流域全体に渡って構築されている無数の砂防堰堤等によっても少なからず生じているはずであり、ファブリダムを始めとした小規模堰堤上部のたんすい部を視野に入れ、流域全体として「水を貯めること」による水質への影響評価に取り組んでいただきたい。	
環境-55	生息・生育環境の保全と再生の検討(高田地区)	検討で可；環境委員会(仮称)では、専門的で活発な検討ができるような実効性のある委員会とすべきである。地元住民の参画と協働のもと、環境教育の実施など再生後の継続的な利用方法、運用方法を同時に検討すべき。外来種対策は早急に対応が必要なため、植物以外も考慮し、優先順位を上げて対応してほしい。	他の整備シートも共通する
環境-56	生息・生育環境の保全と再生の検討(東園田地区)	検討で可；環境-55に同じ。	他の整備シートも共通する

シート名	事業名	猪名川部会とりまとめ案	備考
環境-57	生息・生育環境の保全と再生の検討(北河原地区)	検討で可；環境-55に同じ．場所選定の理由が明記されており評価する。神田(こうだ)地区も同様の対策が可能かつ必要と考える。	他の整備シートも共通する5章で記述の必要あり。
環境-58	支川や水路を含めた構造の改善等に向けて、関係機関と連携	検討で可；であるが農水省・県農地整備課と連携して、早期の実施が望まれる。水路を含めた横方向の水域ネットワークワークの再生を目指した河川構造改善を提案しており、評価する。流入支川、水路で連続的に多様な生息環境が確保されるような整備が同時に必要である。流域全体の連続性を考慮し、場所の選定に際して効果的な場所を選定すべきである。参考例：うぐいすのもりで取水しているが途中から暗渠になっている。川西の文化会館周辺が非常に良好な状態で残っている。	
環境-62	ダム湖法面の裸地対策を検討	検討で可；本当にうまくいくのかは疑問という意見もあり、効果的なものとなるよう検討されたい。ただし外来種は持ち込むことのないよう配慮が必要である。また景観のみならず、魚類の生息環境などダム湖の生態系の観点からの緑化も検討すべきではないか。	
治水-3	みんなで守る(水防活動、河川管理施設の運用)	検討・実施で可；流域委員会の提言の趣旨に沿った取り組みとして、評価できる。都市型水害シミュレーションモデルを開発して検討すべきである。河川レンジャーが、防災教育面でかかわるような仕組みが必要である。	治水4,5も同じ
治水-4	地域で守る(街づくり、地域整備)	調整・検討で可；関係自治体と連携し、土地利用の規制・誘導に踏み込んだ整備計画を高く評価する。また、保水能力の維持・改善に農林部局との連携をとり入れたことを高く評価する。猪名川流域には、休耕田のみならず、田畑や使用されていないため池が多数あり、これらの貯留機能を治水面に活用することが考えられ、具体的方策を検討すべきである。また今後、貯留機能を有する敷地の所有者に対して支援を行うことを明記するなど、「流域対応」を進める姿勢を、高く評価する。実施の段階の早期実現を期待する。	
治水-9	堤防補強	検討・試行・実施で可；補強方法によっては、環境面でのデメリットもあり、場所により異なった工法の検討をされたい。また、治水のみの観点でなく地域のニーズを取り入れ、幅広く検討してほしい。在来種があるところは、覆土するなど、地域に応じた堤防を作ることができるのではないかと。堤防のあり方を地域の希望に応じた表情のある堤防に整備していただきたい、すなわち、治水上の危険を増大させない限り、景観、生態系、地域のニーズに配慮した多様な堤防作りを進めてほしい。堤防補強とあわせ、高水敷を切り下げ河川断面を確保していただきたい。その際、上記の事項に配慮すべきである。堤防補強工事完了後は越水被害に対するハザードマップを公表すべきである。	堤防整備全般に共通する意見

シート名	事業名	猪名川部会とりまとめ案	備考
治水14-1	堤防補強	検討・試行・実施で可；とくになし	
治水14-2	堤防補強	検討・試行・実施で可；園田競馬場を遊水地として活用することができないか。	
治水14-3	堤防補強	検討・試行・実施で可；特になし	
治水14-4	堤防補強	検討・試行・実施で可；大阪国際空港の地下に遊水施設を作ることは不可能か？	
治水14-5	堤防補強	検討・試行・実施で可；とくになし	
治水14-6	堤防補強	検討・試行・実施で可；特になし	
治水14-7	堤防補強	検討・試行・実施で可；猪名川大橋左岸の切り下げを視野に入れる。治水14-6との東久代地区の堤防補強とあわせて検討してほしい。ただし、切り下げ時は、在来植物群落が神田地区に豊富に残っており、これらの保全に最新の注意を払うべきである。	
治水14-8	堤防補強	検討・試行・実施で可；特になし	
治水14-9	堤防補強	検討・試行・実施で可；特になし	
治水14-10	堤防補強	検討・試行・実施で可；特になし	
治水22	川西池田地区の築堤を実施	実施で可；横断面が単調になっている。横断方向の植生環境の回復施策を検討してほしい。	

シート名	事業名	猪名川部会とりまとめ案	備考
治水-37	河川管理施設の耐震点検	検討は不可；閘門の耐震性能を早急に検討し，実施に取り組むべき．東南海地震の確率を念頭において。	
治水-38	津波のソフト対策	実施で可；問題なし	
利水-1	利水者の水需要の精査確認	精査確認で可；特になし	全般に関連すること
利用-6	河川保全利用委員会(仮称)	調整で可；猪名川では特に河川敷の運動公園としての利用が多いので，河川環境でなければできない利用形態に早急に調整していただきたい．	
利用-7	違法行為の対策	実施で可；特になし	
利用-8	ホームレス対策	協議・推進で可；特になし	
利用-9	迷惑行為の対策	実施で可；特になし	
利用-10	航路維持有効利用方策検討	検討を実施するのですか？；特になし	
維持-1	堤防・護岸等の修繕・空洞化対策	調査・実施で可；特になし	
維持-19	河川環境の保全のための指導	継続実施で可；特になし	
維持-20	テロに対する危機管理の対策	実施で可；特になし	

シート名	事業名	猪名川部会とりまとめ案	備考
ダム-1	生息・生育実態を定期的に調査	このままの実施は不可；調査項目・方法については、過去の河川水辺の国勢調査（ダム湖編）の結果が、どのようにダム管理に生かされているのか公表し、地域住民や専門家を加えた検討会で調査項目・方法の再検討を要する。また、地域住民参加による、調査項目の検討と調査を検討する。	
ダム-2	ダム水源地域の活性化に向けた湖面活用や周辺環境整備	検討・実施で可；一庫ダムの湖面活用に関しては、慎重に検討されたい。・・・	要検討
		河川レンジャーの役割を検討する。レンジャーの活用を検討する。	
ダム-3	河川利用者に対する安全を図るためのハード面とソフト面の充実・強化	検討・実施で可；特になし	
ダム-4	ダム付属設備の計画的な補修を実施	実施で可；特になし	
ダム-5	流木の有効活用を検討・実施	検討・実施で可；基本的には可と判断する。ただし、流木の発生源の対策もあわせてとってほしい。また、流木の有効活用方法としては、チップ以外の有効活用があると考えられ、幅広く検討されたい。ただ厳密な意味では、河川生態系に与える落葉・落枝の役割りと同様、流木の河川生態系における存在意義を評価し、その処置を精査・検討する必要がある。	流木の活用

シート名	事業名	猪名川部会とりまとめ案	備考
ダム-22	余野川ダム(猪名川総合開発事業)	基本的に要望した事項についてはおおむね取り入れられてあり、評価できる。	
		氾濫原対策について住民のかかわる部分について具体的に検討すべきである。	
		社会的合意のとり方について具体的に検討すべきである。	
		1. ダムについては、住民意見の聴取を社会的合意形成の重要なものと位置づけ、その取り組み回数、方法(円卓会議形式、ワークショップ形式、現地視察形式など)、開催場所など、積極的取り組みについて、整備シートに記載してほしい。 2. 環境影響などについては、住民などにも積極的に情報提供を求め、住民参加の機会を増やすことを検討する。 氾濫源対策については、住民とともに考え、その普及や推進について、協働して進めていけるフォローアップの体制を検討する。また、これらの普及推進、住民参加について河川レンジャーのかかわれる役	
ダム-23	環境等の諸調査	動植物の環境調査を計画段階から住民参加のもとで行い、評価の際も住民を入れて行うべきである。 1. 動植物・生息・生育の補足環境調査におけるモニタリングなどにおいて、住民参加によってできること、そのほうが効果があるもの、専門家による調査が有効なものなど検討し、住民参加による調査の取り組みを広げる検討をおこなう。 2. 活動拠点・自然環境の価値などは住民参加により検討をおこなう。 3. これらの取り組みに河川レンジャーのかかわれる役割や連携を検討する。	
		宅地開発に伴う流入源対策も検討すべきである。	
ダム-24	土砂移動の連続性の確保する方策検討	特になし	